

審議会等の会議結果報告

1 会議名	第4回久居地区地域審議会
2 開催日時	平成24年8月27日(月) 午前9時30分から午後0時5分まで
3 開催場所	久居庁舎3階 301・302会議室
4 出席した者の氏名	(久居地区地域審議会委員) 大幡貞夫、井面三砂、岡みち子、川合和成、川原田義之、倉田年治、佐藤ゆかり、柴田房子、清水美智子、津山峰子、中森堯子、服部孝浜地明子、森下隆史 (事務局) 津市長 前葉泰幸、久居総合支所長 藤枝克二、 久居総合支所副総合支所長 奥野幸司 地域振興課長兼久居体育館長 澤井尚、地域支援員 紀平正行 同課地域支援担当主幹 岸江一浩、同課地域振興担当主幹 中村哲也 同課主査 堤佳代 教育委員会久居事務所長 高尾明 地域振興課産業振興担当副参事 奥田哲也 生活課市民生活担当主幹 奥野昌也 政策財務部政策担当参事兼政策課長 山下佳寿 同部地域政策課長兼地域政策担当主幹 北川良治 同部政策課政策担当副主幹 梅本和嗣
5 内容	(1) 久居地域の今後のまちづくりの方向について (2) 地域かがやきプログラムの今後の取り組みの方向について (3) その他
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	4人
8 担当	久居総合支所 地域振興課 地域振興担当 電話 059-255-8819 E-mail 255-8812@city.tsu.lg.jp

・議事の内容 下記のとおり

地域振興課長 おはようございます。本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。定刻になりましたので、ただ今から、第4回久居地区地域審議会を始めさせていただきますと思います。

なお本日、西田委員から欠席との連絡を頂戴しております。

本審議会の情報公開につきましては、これまで同様、委員個人名での掲載とさせていただきますので、御了承いただきますようお願いいたします。

それでは、本日は、前葉市長が出席させていただいておりますので、開会に

あたりまして一言御挨拶申し上げます。

市長 地域審議会の皆様、おはようございます。

平素は、大変御世話になり、ありがとうございます。久居の地域審議会の皆さんが、大変熱心に御議論いただいておりますこと、まずもって、心から敬意を表する次第でございます。

4月13日に、この地域審議会の委嘱をさせていただきまして、その後、大幡会長には、総合計画審議会の委員も兼務をさせていただいているわけですが、4月13日の時点では、総合計画審議会が立ち上がっておりませんでしたので、今日は御手元に、総合計画審議会に対して、私のほうからお願いをした論点・観点を記した資料をお持ちしました。大幡会長から皆様方に対して御報告あるいは何らかのお話があったかとは存じますが、私が申し上げた思いを、少しこの場でお話しさせていただいて、審議の御参考にしていただければと思っております。

まず、1番と2番は、関連することですが、基本構想を尊重して後期基本計画をつくりたいということ、そして、合併後10年でやるべきとしていたことを確認して、検証しながらやりたいということです。

基本構想というのは、平成20年から10年間の構想として定められております。これは、議会の議決を経ておりますので、大きなまちづくりの方向性としては、首長が代わろうと、この10年これでやっていくんだということを、基本的にはこれを受け継いでいく、という形で定められたものでございます。

と同時に、平成18年に合併しておりますから、基本的には、合併特例債の期間である、合併後10年でやると定められていたことは、きちんとやらなければいけない。これは、行政の継続性というよりも、もっと大きな、合併の時のある種の思いを、皆さんが持ち寄られた時の約束のようなものですから、これは、きちんとやらなければいけないというのが基本であります。

したがって、この総合計画審議会の後期基本計画は、基本的に、この10年でしっかりとしたまちづくりをするということを、実現していくためのものであるということを、まず説明させていただきました。

そのうえで、5番に合併特例債の5年延長ということを書かせていただいております。これは、この調査審議がスタートするときには、まだ、法案の段階だったんですが、6月に国会でこの法案が通過して、成立をいたしました。

したがって、合併特例債は、平成18年から10年間の予定だったんですが、15年間に延びました。この延びた理由は、東日本大震災です。東日本大震災で、予定どおりのまちづくりができないというところが、被災地及びその周辺を中心に非常に多かったもんですから、全国一律で、5年間の延長がなされたということです。被災地については、10年の延長がなされたと記憶しております。

そこで、私どもへの影響ですが、18年から27年までだったのが、32年までに、5年間延長されたということです。ただ、だからと言って、合併した

時の約束が変わるわけではないので、合併した時にやろうとしていたまちづくり計画を、10年間でやるはずだったのを、15年間でできるようになったというだけで、それは、やはり基本10年でやりたいと思っております。何らかの事情で、どうしても後ろ5年間のところへ延びていくものがあつたとしても、それが救われるというイメージになるわけでございます。

6番の、国・県事業との連携は、「中勢バイパス」ひとつ取ってみても、いかに国の事業、直轄事業が、まちづくりに大きな影響を与えるかということは、言を俟たないわけでございますので、しっかりと、国や県でやっていただくべきことは、物申していく、この計画でも明らかに書いていくということです。

そして、7番が、市民の皆さんの御意見をしっかりと踏まえながら、この計画を立てていきたいということです。

残された、3番、4番ですが、これが、実は、平成18年なり、20年なりというところからすると、かなり大きな変化が起こっているということでございます。これは、当然のことながら、先祖返りするわけにはいきませんので、今の状況を踏まえて、書かなければいけないということでございます。

4番の「社会経済情勢」と書きましたのは、たとえば、東日本大震災ひとつ取ってみても、久居が非常に災害に対して安全な場所として注目をされて、今や住宅団地も久居から売れているという話もございます。そういう意味では、大きな状況の変化がある。

3番の「地域課題への対応」ですが、これにつきましては、あとで少し申し上げますが、久居独自の課題というのがあって、それが、いろんな状況の変化が生じている。こういうことに関してはきちんと対応していかなければならない。ということで7つの論点を書かせていただきました。

そして、当審議会で、今日資料1で出てくると思いますが、「久居地域の今後のまちづくりの方向について」ということで書いていただいている事柄、これはざっと見せていただくと、大きく分けると、今申し上げたまちづくりの時の考え方で言えば、おそらく、都市部で様々生じている高齢者対策でありますとか、地域コミュニティでありますとか、あるいは福祉の課題、さらには、住民の意識改革、男女共同参画、その他まちづくり、そして榊原という観光地があることに伴うもの、この辺りがおそらく久居として今までもまちづくりの根幹の部分で関わってきて、そしてこれからもやっていかなければいけない部分だろうなと思っております。これは、しっかりと今後の望ましい姿を書いていただいて、それに対して、一歩でも二歩でも近づいていくということが必要かなと思っております。加えて、久居独自の課題として、この駅周辺の話、そしてポルタ、総合庁舎、関連して、商店街の活性化、といったような事柄、これはかなり状況がどんどん、どんどん変わってきておりますから、これもしっかりとやらなければいけないということでございます。ここで、ポルタのことを詳しく申し述べる場面ではないと思っておりますので控えますけれども、一言でいえば、147億円という大きな事業費をかけて進めた事業の、コストに当たる地価の状況だとか、あるいは建設資材の状況、そして当時求められた都市機能の在り方、

などが今の平成24年の時点に適合しているのかどうかというと、地価ひとつ取ってみても、コストで負けてしまうような地価の状況になってしまっているということ、これは全くセンターパレスも同じ問題があったわけでございます。センターパレスはもっと前ですので、昭和54年に土地を取得しておりますから、その時と今の時価を比べますと3分の1になっています。簿価で土地は20億円になっていますが、実際は、3分の1の時価しかない。ところが、簿価はそのままにして、毎年少しずつ利益を出した形でやっておりますから、財務構造としては非常に脆弱な状態のまま引き継がれているということでもあります。ポルタについては、すでに1回、銀行に34億円の債権放棄をさせるほどの大きな変動を経ておりますので、一回は、ある種、さらされているわけでございます。それでも、なおかつ、まだ、最後のところが、持続可能な状態になっていなかったという問題かなと思います。ただ、このポルタは、今すぐに手を打てば、きちんと整理ができる状況でありますから、財務の改善というか、抜本的な改革を今是非やらしていただきたいという提案をしておるわけでございますので、ここはいろいろな御議論がまた、さらにあるかと思っております。9月議会でもいろいろと御議論があらうかと思っておりますので、そういう御議論を踏まえて、そして市民の皆さんの思いを踏まえて、思いを受け止めてやらせていただきたいと思っております。

今日の審議は、この段階でお話を伺うのは、まだまだこれから地域審議会の会長から総合計画審議会の会長に、久居の思いを出していただく段階に来ておりますから、その段階でお取りまとめになる前に、市長がどのように考えているのか、聞いておきたいことがあったらおっしゃっていただいたり、あるいは、もう少し議論を市長に聞かせておこうということがありましたら、そういう論点を、打ち出していただいてお話を頂戴できればと思っております。

最後に、どの審議会でもお話しさせていただいておりますが、あまりきれいなまとまりのある文章を書かないでほしいというお願いをしております。

と言いますのは、総合計画審議会で受け止めるわけですから、総合計画自体を今審議しているところですので、地域審議会に出てくるものが、そこで上手にまとまってしまうと、それを、さらにまとめるということになると、角の取れた非常に耳触りのいいものになってしまうんですが、それで満足をするのは、市民の皆さんの高い志を、ある種きれいにまとめようとするに、あまりにも集中すぎだと思っております。多少ゴツゴツしたものを書いていただいたほうがいいと思います。そのほうが、総合計画審議会の議論も活性化したいと思いますし、何よりも久居の方々の思いを前に出してもらわないと、ほかの地域もゴツゴツとしたものを書いてこられると思いますから、ものわかりが良すぎる久居、心穏やかな人が多いので、それでもいいのかもしれませんが、やっぱりここは合併後10年の中で、最後のチャンス、10年間でいいまちづくりができるかどうか、各地域発で見直す最後のチャンスでありますから、ここでちょっと、あえてゴツゴツしたものを出していただいたほうが、全体の総合計画審議会の議論も活性化したいと思いますので、そのようにお願いをしております。

す。

是非よろしくお願ひ申し上げます。

地域振興課長

それでは、早速、議事に入っていただきたいと存じますが、議事に入ります前に、事前に送付させていただきました資料の確認をさせていただきたいと存じます。

事前に郵送させていただきました資料といたしましては、事項書が1枚。それと、資料1といたしまして、これは、事項1のところを使っていただきます。詳細につきましては、事項1の前段のところでお説明させていただきますが、「1久居地域の今後のまちづくりの方向について」ということで取りまとめた資料でございます。それと資料2といたしまして、これは、事項2のほうで御覧いただきますが、「2地域かがやきプログラムの今後の取り組みの方向について」ということで、資料2でございます。

以上が、事前に送付させていただいております資料ですが、御手元にご覧いただけますでしょうか。なければ事務局におっしゃっていただきたいと思ひます。

また、本日配らせていただきました資料ですが、今、市長から説明がございました「審議会に期待する調査審議の視点」というのが1枚。それと、いくつかチラシがございまして、青い紙で、9月15日開催の「ふれあいまつり」のチラシです。これは、人材ポケットひさい、大幡会長のところですが、イベントに取り組んでいただいております、市内回覧をさせていただいております。

それと、二つ目、「こどもみこし」の募集ということで、昨年も募集がございましたけれども、これも回覧の予定です。

それと、三つ目でございますが、これは、大幡会長からの提供資料でありまして、「青少年健全育成のための「津市こどもまつり」の開催について」ということで、後段の2の事項になると思ひますが、会長のほうから若干御説明があるかもしれません、御参考に御覧をいただきたいと思ひます。

以上でございますが、御手元にご覧いただけますでしょうか。

それでは、早速、審議に入っていただきたいと思ひますが、本日市長はじめ、「地域かがやきプログラム事業」に関わる当総合支所の担当課長等及び本庁政策財務部から総合計画策定に関わります関係職員が出席させていただいておりますので、御了承を願ひいたします。

なお、市長につきましては、事項1のところ、一時間程度、一緒に議論をさせていただきたいと思ひますので、御協力よろしくお願ひいたします。

それでは、会長のほうでよろしくお願ひいたします。

議長

ありがとうございました。それでは、「地域審議会の設置に関する協議」第9条第5項に基づき、議長を務めさせていただきます。

本日は、市長、公務多忙の中、当審議会に御出席いただき、誠にありがとうございます。久居の審議会としましては、いつ市長が来てくれるのかなという

ことで、待ち望んでおりましたが、本日その運びとなりました。御存知のとおり、久居の審議会は、委員15名のうち女性の委員が8名おります。現在各委員会におきましては、女性委員の比率が、いろいろと問題視されている中で、当審議会は、率先して男女共同参画を実践しておりまして、久居がリーダー格として、当審議会が設置されていると思っております。ということで、一般家庭もいっしょですが、女性の力をすごく頼もしく感じているところです。

いろんな御意見が今まで出ましたが、今日も出るかと思いますが、是非市長に受け止めていただきまして、いろいろな参考にしていただければと思います。どうも本日はありがとうございます。

本日は、14人の出席を頂いておりますので、「地域審議会の設置に関する協議」第9条第4項の規定により、当審議会は成立しておりますことを御報告いたします。

続きまして、本日の会議録の署名委員ですが、前回に引き続き委員の御名前の五十音順にお願いしたいと思います。

本日は、清水委員と津山委員のお二人にお願いしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

1 久居地域の今後のまちづくりの方向について

議 長 それでは、事項1「久居地域の今後のまちづくりの方向について」に入らせていただきます。
事務局から説明をお願いします。

地域振興課長 それでは、事項1「久居地域の今後のまちづくりの方向について」、簡単に説明させていただきます。

事項1のための資料につきましては、先ほど、資料確認の際に出させていたいただきましたが、資料1といたしまして、「久居地域の今後のまちづくりの方向について」を御用意させていただきました。

こちらの資料につきましては、去る7月12日に開催をさせていただきました第3回目の地域審議会及びその後紙ベースで委員の皆様方からいただきました久居地域のまちづくりの課題につきまして、8月7日に検討委員会の委員にお集まりいただきまして、取りまとめをお願いしたものでございます。

本日は、この資料1も参考にしていただきながら、久居地域のまちづくりの課題や、課題を解決していくための今後の方向について、改めて、皆様方から順番に御意見をいただきました後、市長との意見交換を含め、議論をしていただければと考えております。

議長 本日は、市長にも御出席していただいておりますので、事務局からも説明が
ありましたが、各委員さんの御経験や御見識などを踏まえた、久居地域のまち
づくりの課題や取組方向などを、すでに資料1にまとめられているとは思いま
すが、改めて、発表していただきたいと思います。

時間の都合もありますので、すべての委員の皆さんから御意見をいただいた
後に、市長から、御感想なり、御意見なりを頂戴したいと思いますので、よろ
しくお願いします。

それでは、井面委員から順番に、お一人2分程度で、自分の思いを発表して
いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

井面委員 私は、榊原温泉の活性化ということで、折角良い温泉源があるので、何とか
榊原温泉を発展させていきたいと思います。

湯の瀬の前に大きな道の駅をつかって、広い駐車場をとり、足湯をつかって、
農産物とか地元で取れた品物を売ります。そうすれば、マラソン大会の時、秋
の収穫祭の時など、駐車場の心配をしなくてもよいと思います。それで、駐車
場の周りをなばなの里のようにまでは行かなくても、四季折々のお花畑をつく
れば、人が集まってくるのではないかと思います。そしてPRに力を入れたら
いかがでしょうか。

岡委員 私も、井面委員と同じ考え方で、よく箱モノといわれるんですが、箱モノが
なければお客さんを集客することができないので、箱モノも必要だと思います。
そして、そこで、農産物の直売をするということは、農家の女性たちが、とて
も生き活きするんです。たとえ1日、千円、二千円の日銭でも、農家の60代、
70代の方々は、そのことで、とても健康にもなり、意欲的にもなっていだ
けます。そうした農村の女性、高齢者の健康を維持していくためにも、とても
大切なものだと思います。

それともう一点、いつも言っておりますが、獣害対策で得たものを何か加工
していただけないか、皆さんのいい御知恵を絞りだしていただいて、特産品を
つくっていただきたいと思います。先日も、テレビを見ておりましたら、三重
県のほうで、シカ肉のソースを開発するとか、したとかとっておりましたが、
そういうところまで来ているんだなと思って、見ておりました。ですから、農
村のほうには、とても鹿とか猪が多くて困って見えますので、その後の処理
ができれば、いいかなと思います。また、そこへ子供たちを呼び込む方法など
も、皆さんと共に考えていただけたら、榊原のほうも活性化してくるん
じゃないかと思いますので、その点よろしく願いいたします。

川合委員 私は、榊原地区の地元の者でございます。先ほど、お二人とも良い意見をお
っしゃっていただきました。

過去の話で申し訳ございませんが、榊原温泉活性化のために、近鉄が、榊原
駅をつくるということで、庄田、一色、榊原、そして青山高原を抜けて、名張

の方へいくという計画があったそうですが、それは地元が反対をしたということです。今できておれば、ものすごく発展していたと思います。

また、今、榊原温泉駅前にあるルーブル博物館を榊原に建てるということで、奈良の神社から依頼があったそうですが、これも断った。

ですから、皆さんのいい意見もありますが、地元に住んでいる私から見ると、地元の方は、活性化に対して意外と遠慮しているというか、外から入ってくるのを嫌っているのではないかと思います。

私は、いつまでも昔のようなことをしてはいけないということで、地元でもけっこう発言をさせていただいておりますが、温泉振興協会と地元の団体との温度差があります。これも例を挙げますと、今月15日に、温泉協会主催の盆踊り大会がございました。準備は、地元団体がします。手伝いも地元団体がします。温泉振興協会として、会長は来ていただきますが、温泉協会、旅館組合は、誰一人手伝いには来てくれません。ですから、そこに温度差があるんです。私はそれを肌で感じていますので、これではいけないということで、地元でも強く意見を申し上げております。

私の思いは、中部国際空港に、多くの観光客などが来られていますので、その1%でいいですから、なぎさまちを通じて榊原へ来ていただければ、ものすごく活性化されるのではないかという思いを持っております。

川原田委員

今、いろいろと話題になっております、駅前を含め、ポルタの再生ということでは、市長さんにずいぶん頑張ってくださいまして、本当に感謝をしております。

今日も「審議会に期待する調査審議の視点」という、この7つの視点を示されまして、非常に心強く思っております。この内容につきましては、是非もっとお聞かせ願いたいと思いますが、先に事務局のほうから、今日の会議について、意見を述べてくださいということで、文章をいただきまして、その中から私の思いをお話しさせていただきたいと思っております。

まずは、津市の総合計画の中で「副都市核」という記述があつて、実際は、何もやっていなかったというのが、これまでの期間だと思います。この「副都市核」というのは、いったい何だろうかということが、本当に住民の方たちにわかっていない。住民のそういうことに対する関心が非常に低い。

過去ポルタの問題では、いろいろ活動してきているわけですが、「それはポルタの問題だ」、「駅前の問題だ」、「なにも久居の問題ではない」という意識がものすごく強くて、未だに、自治会連合会等の会合におきまして、そういう発言が多々あるわけでございます。ですから、「副都市核」とは何ぞや、津市としてはこういう拠点として、こういうものを設けるんだということの再確認と啓蒙をかなりやらないと、今、榊原の説明であった様な、もう一つ大きな問題があるんじゃないかと考えます。

それと、久居を災害の少ない場所として、強くPRされているわけですが、もう一度、そのあたりを確認をしまして、将来10年あるいは20年後の久居

地区ということで、新しい産業基盤の形成を目指したらどうかという気がいたします。勤住接近というんですか、良く昔言われましたけれども、勤住接近のまちづくりを目指したらどうかという風に思います。

それと、もう一つは、市内に老築化した建物が多いわけでございます。先般、市長さんにも街の中を御視察いただいたわけですが、道路が狭く、密集した老築住宅、これが、久居の駅前から始まりまして、二ノ町、本町、東鷹跡とずいぶんあるわけですね。これをなんとか、時間はかかりますが、時間がかかるから放っというてはいけないと思います。今、やらなければそれだけ時間が過ぎる。それで、また延びていくわけですから、これは、基本計画の中に、きちっと、土地区画整理というんですか、土地の使用目的を明示した、土地の利用図というんですか、これを、提案をしていくということなんです。たとえば、久居駅前周辺は、将来的には、津市と同じように、高層住宅になるから、こういう規制はしますよということを明示することで、皆さんは安心して、低層の住宅に住んでいるということになると思います。そのことは、もうひとつ、自主防災面からも非常に大切です。火事があつたら全部燃えてしまいます。そういうことであつてはいけませんので、防災面からも、区画整理か何かで、道路を広くとるとか、そういうことを計画の中に盛り込んでいってはいかがでしょうか。

倉田委員

私は、自治会を代表しております、この4月から地域の自治会長を仰せつかっておるわけですが、そのあたりの観点から、今後のまちづくりの提案をさせていただきますと思います。

まちづくりは、ソフト面から入るのか、あるいは、ハード面から入るのか、いろいろ論議があると思いますが、私はソフト面から入るべきだという考えを持っております。

具体的には、地域のコミュニケーションが充実したまちづくりの一つの拠点として公民館を考えております。地域いきいき公民館づくり。それぞれの地域で、子供たちが元気、働き盛りのお父さん・お母さんたちが元気、高齢者が元気、それぞれ皆さんが元気になれば、地域も全体が元気になるだろう。その中でも、今後増え続けるであろう高齢者の方が元気になっていただくために、地域には、それぞれ公民館がありますので、公民館活動を活発化して、お年寄りが元気になっていただくことを考えております。

久居地域でも、それぞれの小学校区単位で公民館があります。中心となっているのが、久居公民館ですが、久居公民館は、現在、自分たちが、自主的に講座を開いて、学習しております自主講座のグループが87あります。毎年3月上旬に公民館まつりをやっておりますが、それを目標に、それぞれの自主グループを中心に、いろいろな作品をつくったり、お琴や詩吟などの発表のために、練習をしていただいております。こういうことから考えますと、自主講座は、長年の歴史がありますので、地域のコミュニティもさることながら、地域のリーダーの養成の絶好の場にもなっています。自主講座は、自分たちの趣味を好きでやっているというだけではなく、地域のコミュニティの原点としての公民

館活動であるということ、地域のリーダーの養成の場として位置付けて、みんなが元気になるように、「地域いきいき公民館活動」を通して、地域のコミュニティを充実して、お年寄りが元気、働くお父さん・お母さんが元気、子供たちが元気、そんなまちづくりを夢見ております。

それから、津市では、体育系では、津スポーツ施設整備基本構想というのが計画されており、スポーツのほうではこれを拠点に、文化系では、地域の公民館活動を、車の両輪として、それぞれが元気になる、そんなまちづくりを提案したいと思います。

それから、久居駅周辺のことについて、少し触れさせていただきますと、今お話しがありましたようにポルタについては、もう、早期解決、これを是非お願いしたいと思います。今いろいろと案が出されておるようございますけれども、最終的には、ここを、どのように市民の皆さんにとって有効に活用されるか、活用できるか、これがポイントだろうと思います。このあたりをポイントに早期解決をお願いしたいと思います。

ただ、駅東の開発について、民間企業が提案していた時の説明会に参加をさせていただきましたが、その時に、特に、地元の皆さんからいろいろな御意見が出ておりましたので、その時の御意見を紹介させていただいて、今後の対策・施策に活かしていただければと思いますので、あえて紹介させていただきます。

ひとつは、久居駅の南と北に近鉄の踏切がありますが、朝夕かなり渋滞を起こしているのです、久居駅東の開発の際には考慮してほしいということ、もうひとつは、現在駐車場があるけれども、恒常的に近鉄を利用している人が、駐車場を利用しているので、新しい施設ができた場合には、近鉄の利用者の駐車場にプラスして、新しい施設の利用者の駐車場を確保していただきたいということ、このような意見が出ておりましたので、紹介させていただきます。

議長 ありがとうございます。申し訳ございませんが、時間的なこともありますので、お一人2分以内でよろしくお願いします。

佐藤委員 まず一点目は、防災です。市内の各地域で、防災について、取り組みが見られるものの久居地域は、まだ切迫感がないように思われます。確かに、高台で津波は来ないかもしれませんが、浸水の被害は過去に何度も例がありますし、三重県に、最悪で震度7の想定もされているところでございます。ところが直近の広報津を見ますと、9月の防災の日に向けた、地域の避難訓練のお知らせでは、久居は、各自主防災会、自治会任せで、統一した訓練が計画されておられません。私自身、有名無実の地域自主防災会の存在も知っておりますので、大丈夫かなと心配になります。

そこで、例えば、避難所を想定して、小学校区単位で、協議会や防災組織を立ち上げて、避難及び避難所運営訓練などをする必要があると思います。私は、誠之小校区ですので、誠之小校区は、特に文教地区で、学校が多いので避難場所も他地域に比べて多いですけれども、家族では、どこの避難所に集まる相談

はしていても、たとえば組単位、自治会単位では、そんな話し合いも持たれていないので、緊急時にあっちへ行ったり、こっちへ行ったり、混乱が予想されると思います。こうしたことを解決するためにも、地域の組織化が、急務だと思われます。防災リーダーは、資格を持っていることに越したことはないとは思いますが、資格はなくても、各自の経験や能力、持ち分を活かして役割分担できることは、いくらでもあると思います。防災を核とした地域づくり、老若男女、地域の隠れた人材を見つけ出して、組織化、交流を進めることが、少子高齢化の地域の介護力のアップにも繋がるのではないかと考えています。

二点目ですが、先に会長さんから紹介していただいた、男女共同参画でございます。当審議会の女性比率は、確か美杉に次いで、2位だったと思いますけれども、しかし、まだまだ久居地域でも、自治会の会長ですとか、体育振興会、PTA等会長はじめ、役員女性の比率は、未だに低いです。津市は、男女共同参画宣言都市ですけれども、市域全体で住民にも行政にもまだまだ、自覚と責任に欠けるような部分があるのではないかと考えています。合併前、男女共同参画推進条例を持っていたのは、旧津市と旧久居市であることを考えると、久居地域は、津市の男女共同参画をリードする責務があるのではないかと考えています。

そこで、私が、久居地域に考えるのは、男女共同参画モデル地区です。10地域に先駆け、かつて条例を持っていた地域として、久居は、男女共同参画に基づいたまちづくりを実践し、他地域にその成功例を示すことで、男女共同参画都市、津市の地域的底上げを図ってはどうかと思っています。

清水委員

商店連盟を代表して出させていただきます清水です。

この間も商店連盟のほうで、ここに、市長にお越しいただいて、お話しさせていただきましたが、久居駅が折角あるから、もっと、近鉄と三交バスの利用者などを、資料に、まちづくりの課題として挙げていただいておりますが、もっと、久居のほうへたくさんの方が寄ってきてもらうように、何か考えるといいと思います。それと、先ほど榊原温泉のことを言ってみえましたが、私たちたばこ組合のほうでも、年1回座談会を行っております。嬉野、津、白塚、一志方面で、座談会をさせていただきますが、やっぱり榊原の方は、私たちのほうから頼みに行きましても、出席していただけません。何度頼んでも、川合委員がおっしゃってみえましたように、忙しいということがあるかもしませんが、出席していただけないように思います。

柴田委員

民生児童委員会から出させていただきます柴田です。

私は、市長さんが出て見えます、テレビの情報番組をときどき見させていただいております。ポルタの話も聞かせていただいて、私は、その土地に住んでいないんですけれども、その地域の方々は、今まで、スーパーは、内田屋さんがあり、マルヤスさんがなくなりました、その結果、「私たちは、買い物難民だ」という声を、昨日も何人もの方から聞かせていただきました。その近くの

人たちは、スーパーに行くのにタクシーを利用されておりまして、そうすると、少ない年金で、介護保険は受けなければならないし、タクシーで買い物に行かなければならないというのは、ちょっと気の毒かなということを感じました。私も時間のあるときには、地域は違っても、買い物に連れて行ったりするんですが、たびたびできませんので、最近、のべのスーパーさんが週3回、時間を決めて来ていただいています。でも、その地域で、たまたま、のべのスーパーさんが来ていただいている間はいいかと思います。炎天下で待っていること、人が集まれる場所の確保などを考えると、ポルタの中へは、そのようなところは、できないということですが、近くに何か小さなものでもいいので、できればいいのになと思っております。

それと、榊原の件で、井面委員も岡委員も言われたように、道の駅は大賛成です。

それと、鳳城朋美さんが、「榊原旅情」という曲を出して見えて、いろんな会場で、PRしていただいておりますが、久居の榊原としては、いかがなんでしょうか。ちょっと聞くところによると、あまり関心がないようなんですけれども。おもてなし館でも流していただければ、もう少しPRになるのではないのでしょうか。

津山委員

婦人会代表の津山です。

榊原のことをたくさんおっしゃっていただきましたので、私も同じ意見がありますが、それは止めさせていただきます。

婦人会といたしましては、今、盆踊りがやっとなだめというところがございますが、津音頭が久居でも定着いたしました。踊れるようになりました。合併したこともありますので、10の市町のいいところを取り入れた、新・津音頭をつくっていただけたらと思います。盆踊りは、短い時間ではありますが、地域、地域で同級生が寄ったり、楽しんでおりますし、小さいときから、それを耳にしながら、これからの子供たちのために、私たちもまだまだ元気に踊りたいと思いますので、是非つくっていただきたいと思います。今市長さんにも居ていただきますので、お願いしたいと思います。

中森委員

文化協会のほうから出させていただいております中森です。

私は、ホールを建ててほしい。それだけです。この前、四季の彩り祭りの時も市長さんに来ていただいて、今度の新春祭の時には、はっきりしたお返事がいただけるようなことをおっしゃっていただいておりますので、それに期待をしているわけですが、去年の文化祭も、雨漏りのことで、今のホールで開催できるかどうかということでした。

津市には、しらさぎホールがあり、リージョンプラザがありということで、旧10市町村にはいっぱいあるんですが、ほとんどのホールが、600席、700席程度です。この前の、芸術団体の会議の時に、それぞれのホールの需要

について、利用率を出していただきましたが、やはり土曜日、日曜日に集中しており、平日が空いているということでした。

大きいホールを建てていただいて、久居の駅東ですと、駅前ですので、三重県中の学生さんたちが、演奏できると思います。

この前、市長さんが、学生の時、久居のホールに出たときは、もっと新しくきれいだったのというお話を、おっしゃっていただいたように、そういう頃の思い出というのは、すごく大切だと思います。500席、600席のホールは、どちらかといえば、カラオケとか後期高齢者の方が主に利用しております、大きいホールというのは、平日も利用できる学生さんたちに主に使っていただけるということを考えていただいて、最低1,000席のホールをお願いしたいと思います。今の久居のホールは、危険な状態ですので、なるべく早く建ててほしいと思います。

服部委員

今、榊原のことで御意見が出たんですけれども、パンフレットで見たんですが、8月の時点で、花王の森づくりの助成金制度がありますが、これを利用して、資料の榊原のところに書かれているような自然学校の設立や体験といったことはできないのでしょうか。3年間で125万円の助成金がもらえるといったチラシがあります。このような制度を榊原に活用できないのでしょうか。

どういうところから助成金が出るのか分からないんですが、榊原の活性化については、いまさら言うのではなく、何十年も前から言われておって、未だ何一つ実現していないんです。前にも申しましたように、榊原には相当の経費が費やされていると聞いております。経費をかけてプランを作ったけれども、一つも目が出ずに、みんなつぶれてしまっているという状況でもあります。

市も補助金を出していますが、折角、国がやっている助成金があるんですから、これを利用していいんじゃないでしょうか。

もう一点、ポルタひさいのことですが、今度、駅東に市民ホールをつくるという話がありますが、その際には、ポルタと、市民ホールをつなぐ、近鉄上部の空間の利用も考えてはいかがでしょうか。

浜地委員

公募により委員をさせていただいております。公募の目的の一つには、ポルタひさいと榊原を何とか活性化できないか、お役に立つことができないかということが一つの動機です。

当初、この議題に入るときは、ポルタひさいのマルヤスさんの空きスペースは非常に広いので、そこにテナントを持ってくるのは難しいと思いますので、駅が近く、高齢者も多いということですので、榊原温泉の湯を持ってきて、駅からすぐ温泉に入れる、マンションにお住まいの方も温泉に入れるということで、ポルタひさいと榊原温泉をセットにして活性化に繋がらないかと考えておりましたが、先般、ポルタひさいが非常に大変な状況になっているということを知りました。そこで、久居公民館が老化しているとのこともありますので、公民館機能をそこに持って来てはどうかと考えました。私は、今、公民館の自

主講座で、2つの講座を受講していますが、江戸橋、津駅辺りから電車で来ている70代の方もいますので、駅前であれば利用される方も増えるのではないかと思います。

私の考えとしては、今あるものを活かして、少しずつ良い結果を積み上げていけば、大きな結果につながると思います。

先ほどから榊原の件が出ておりますが、川合委員がおっしゃったように、人ごとと言っては申し訳ないんですが、頭の固い方がいるのではないのでしょうか。

まちづくり、村おこしなどの日本中の成功した事例をみていると、心血を注いだリーダーシップのある方がいらっしゃるので、そういう方を公募で募集してはいかがでしょうか。

森 下 委 員

公募でこの審議会に参加させていただいております森下です。

三点お願いなどを考えております。

ひとつは、久居駅前に観光看板があったらいいなと思っております。

二つ目は、郷土資料館のようなものが久居地域あるいは津市にほしいと思います。

三つ目は、あと7年で、久居藩の初代藩主藤堂高通公が久居に来られて350年という記念の年になります。7年目、8年目、9年目の3年がかりで、高通公350年記念行事ということでイベントを、高虎公400年の時のようなものができればいいなと思っております。

私は、久居城下案内人の会というボランティアガイドの代表をさせていただいております。半年程前に、市の補助をいただいて、久居城下のパンフレットを5,000部作成させていただきましたが、大変好評でありまして、もう500部程度しか残っておりません。県の図書館も資料としてほしいということで提供もさせていただきました。旧津市の中心部は、このような観光資料が、いろいろな機関から出されておまして、非常にうらやましく思っております。久居には、そのようなものが非常に少ない状況でした。最近の流行の一つが、山ガールとか、歴女とかいいますが、女性だけでなく、男性も名所・旧跡などに非常に興味を持っていただいております。津市観光協会に、13のボランティアガイドが登録されておりますが、そこが最近「津ふるさと学検定」という本を出しました。ガイド会が中心に、500円で販売させていただいております。2,500部発行させていただきましたが、1週間で1,500部が売れまして、急ぎょ1,000部増刷いたしました。もう残り数100冊になっております。10月28日が検定の日になっておりますが、やっぱり自分たちの住んでいるところの名所・旧跡を知りたいと、再認識したいという人たちが多くなってきていると思っております。旧津市と久居を比べますと、旧津市は、非常に文化団体も多く、それが、行政と一体となって、大門の商店街とか、お寺さんとか神社さんが協力しあって、いろいろなイベントを開催する。私たちの住む久居地域もそうありたいと思っております。そういう官民一緒になった活動によって350年記念を盛大に取り組んでいきたいと思っております。

川原田委員

忠犬ハチ公の件が、どなたかから言われると思っていたんですが、なかったもんですから。忠犬ハチ公を観光資源にどうかということですが、新聞にも載っておりますが、忠犬ハチ公は、全国はおろか、世界に名をとどろかせているというか、榊原温泉よりもよほど名前は知られていると思います。そこで、忠犬ハチ公への津市として行政のかかわりを整理していただきまして、忠犬ハチ公の会は全国にもありますし、海外にもあると思いますので、その一員として津市が関わっていくことが、観光資源に結び付いていくと思います。

市長

網羅的にはできないかもしれませんので、コメントできない部分は、決して軽く受け止めているというわけではございませんのですが、まとめていくつかお話をさせていただきまして、今から申し上げるコメントに関して、ちょっとそれは違うぞとか、このように受け止めてほしいとかありましたら、お話を伺って、今日は、失礼させていただくことにしますので、よろしくお願ひします。

まず、榊原のことをこれほど多くの方が、御発言なさるということに、取りまとめでもかなり多くの御意見が出されているということですが、ちょっと新鮮に驚きました。川合さんがおっしゃるように、結局、観光を業とする方と地元に住まいして農業などをおやりになってる方との思いのポイントが違うということが、正直、1年半ずっと感じてきていることです。

そこで、榊原温泉振興協会に対して毎年830万円の助成金を出さしていただいているんですが、これをずっと同じように使っておられるんで、一度0円にして、必要なものをもう一度積み上げてください、必要であればきちんと措置しますし、決して減らすことを目的として0円にすると言っているのではなくて、もう一度助成金の使い方を、一番効果のあるものに集中してください、とお話をしてみました。

その後、1年いろいろ議論をしていただいたんですけども、もう一度積み上げ直した結果は、それほど大きくは変わってはいなかったんですが、ちょっと芽は出ているのかな、という感じがいたしておりまして、ドラスティックには、なかなか変わりませんが、少しずつ変わりつつあるのかなと思っております。

ただ、その中でも、何か、私も、どこか引つかかるものをずっと感じておりまして、先ほど川合さんが言われましたので、やはりそうなのかなと思って伺っております。観光を業とする方々と地元にお住いになっている方々との思いが全く同じではないとは思っておりましたが、どうするのかなと思っておりまして、榊原4、5、6区に行けば、ほとんど獣害対策の話とか、高齢者が多くなってきてといった話とかです。榊原といいますと観光地として捉えられるんですけども、必ずしもそういうことばかりではありませんので、この辺りあとで御意見あったら、お聞かせいただければと思います。

井面さんも、岡さんも、清水さんも、服部さんも、そのほかの皆さんも、御提案をいただいておりますので、悩み多きところです。

ポルタについても、多くの方から御意見をいただきまして、川原田さんが最初に言われた「再生」という言葉を使わせてもらったほうがいいのかなと思いましたが。それは当然、「副都市核」ということでの久居全体の問題を考えなければいけませんし、意図したというよりも、結果として、そのように繋がってきたんですが、東口のことですとか、総合庁舎のこととかと当然関連しますので、まず、ポルタをきちっと再生させて、そのことに伴って、東口の話も、総合庁舎の話も、できれば中心市街地商店街の二ノ町、元町、本町、新町のことも動き出せばいいなと思っております。東口の会館の話もありましたが、そのことも含めて、中森さんが言われていることも含めて、新春祭に間に合うかどうか分かりませんが、なるべく早く、方向性を出したいと思っております。結局難しい問題なので、今まで、いろいろと地元でも御意見があつて、行政でも意見があつて、議会では、議員の方々それぞれの御主張があつて、それに対して役所側、市長側は、言える論理があるので、そこがぶつかり合っているだけで、何一つ清算していないと思っております。これはよくないと思ひますし、事体を動かすということが必要だと思っておりますので、是非やりたいと思ひます。

倉田さんから早期解決をとという御意見をいただきましたが、私も今何とかして動かさなければいけないと思っておりますし、その際には、今はまだ会社の財産ですが、おっしゃっていただいたように、市民の皆さんが、どう有効にあの財産を活用できるかということを念頭において、しっかりと進めたいと思っております。

中森さんにおっしゃっていただいたホールの件ですが、ひとつは、おっしゃるとおりキャパを大きくするというのもアイデアだと思います。もうひとつのアイデアは、久居以外の9つの旧市町村は、それぞれホールを持っていて、それぞれに使っています。久居は、副都市核なので、久居ならではのものを持たないといけないと思ひます。それが、人数なのか、それとも専門性みたいなものなのか、例えば音楽ホールをめざすのであれば、多くの演奏家が、久居でやりたいと思うような音楽ホールにするとか、演技をする人たち、ダンスをする人たちが、この会場はすごいと思うようなものにするとか、何か特色を出さないといけないと思うんですよ。そうしないと、すでに9つもあるのに、10番目を久居でつくるのかということと言われて、久居の方にも迷惑をかけるというような気がしますので、前回の構想は、当然、駅前が開発されて、人が寄る場所になるので、民間の人にもメリットを使ってもらって、その部分のお金を返してもらい、開発利益を享受していただいて、その結果をいただくということがいいのではないかとことを思ひて書いたプランですが、そのプランが、残念ながら、反対にあったということは、とても残念なことだと思ひますが、今、戻って、白紙ではなくって、ホールをあそこにつくるというのは、久居の時から引き継ぎでありますので、私はつくりたいと思ひますが、どんなものをつくるかについては、いろんなこと、需要調査などをしなければいけないと思ひますし、久居の方々とはホール利用者、専門の方々の御意見を聞

いて、決めていくことによって、私が、昭和54年でしたか、高校に入って、久居市民会館で初めて歌ったときに、ほんとに素敵なホールで、とても感動したことを、今でも覚えています、そのような感動を、今の世代の若い人たちあるいは文化を愛する人たちに、差し上げることができればなと思っておりますので、引き続き御意見をいただければと思っております。

都市づくりのことで、川原田さんが言われたところだと思うんですが、倉田さんが言われた、公民館をどう活用していくのかということもそうなんですが、新しい時代のまちづくりは、たとえば、マグ・イゾベールさんが、今度、ニューファクトリーにこられて、いよいよニューファクトリーは、あと1区画になりました。中勢北部サイエンスシティが、もう少しありますが、新しい時代の新産業基盤の形成をどうしていくのか、ということ、そろそろ次の世代に向けて考えておかなければいけないんです。

「勤住接近のまちづくり」は、そのとおりでと思うんですが、ところが、実際の久居の駅前周辺の商店も、大門、丸之内、新町も同じなんです、勤住接近どころか、勤住同一なんです。結果として、年をとってきた、高齢化してきた商売主たちが、商売はだんだんできないようになってきたけど、住み続けていて、結果、大門の中でも、シャッターがほとんど降りているけれども、ちょっとだけ開いていて、何のために開いているかといえば、中に住んでいる人たちが、風を通すために開けている、といったことになっています。これも、非常に悩ましいことだと思っております、何かアイデアがあれば、おっしゃっていただきたいと思っておりますし、中心市街地の商店街は、オープンディスカッションを大門、丸之内中心にやっておりますけれども、今度、久居へも来ますので、久居でも、津でのオープンディスカッションの話を報告しながら、この地域のことを考えたかどうかといったことをやってみたいと思っております。

それから、佐藤ゆかりさんが言われたところの、自主防災会が有名無実になっていないかということは、非常に重要な御指摘だと思いますので、これは、是非、我々もそういう目で、もう一度チェックしてみたいと思っております。

9月1日号の広報に書きましたけれども、自主防災会は今まで、資機材の支援しかやってなかったもので、ほんとに同じような思いで根っこから活性化してもらわないと、頼りない有名無実化している自主防災会ではいけないので、今年、5万円以内で、飲み食い以外なら何に使ってもらってもいいですよという自主防災活動活性化交付金を用意させていただきました。これで、すでに、33の団体に、144万円を交付させていただきました、自主防災組織の活性化に取り組んでいただいておりますので、こういうものを使って、久居地域でも、どんどん活性化に取り組んでいただければなと思っております。

それから、柴田さんが言われました、買い物難民の話は、いい御意見だと思いました。もし、ポルタを早期解決して、全部取得できれば、津市が持つことになる区画の中で、おっしゃっていただいたような使い方のできる部分を考えなければいけないなと思っております。この辺りもよく相談したいと思っております。

津山さんが言われた、新・津音頭をつくるべきということ、思いはよくわかります。議会でも出ておりますので、考えさせていただきます。1番から10番までのをつくりませんか。

浜地さんが言われました、今あるものを活かしていくということですが、ポルタが悩ましいのは、駅前なので駅を使う人の利便性ということを考えたいんですが、ところが、現実には、車で来る方も結構多いんです。ポルタの評判がいま一つなのは、車で来られる方が止めにくい、信号が出にくい、といった話がずっとありまして、東京などの駅近接ビル、駅前ビルと同じことを考えても、車のことを考えなくてはいけないので、なかなか難しいので、大きくは、今もそういう提案になっていると思いますが、市民がお使いになるものが入るか、それとも役所・行政機能を入れるか、そして、後者の場合は、現在の総合支所が空いてきますので、これを市民の皆さんのための施設にしていきたいということも、アイデアとしてはあるのかなと思います。

どちらがいいというのは、9月議会でも議論が出るかとは思いますが、この辺りもどンドン御意見を聞かせていただきまして、決めていく話なんだろうなと思っております。

そして、森下さんの観光ボランティアガイド会ありがとうございます。本当に熱心にしていただきまして、高通公350年、これは是非何か考えていきたいですね。ということでハチ公の話が出ないなと思っております、さみしく思っておりましたら、川原田さんから、お出しいただきました。この間、渋谷区長と会ってきました。それで、聞きましたら、渋谷区長自身は、ハチ公でアピールしようということは全然考えていませんでしたが、話をさせていただきましたら、大変喜んでいただきまして、10月のシンポジウムも、日程が空いたら来ていただけるということをおっしゃっていただきましたので、これをきっかけに、動きが出てくればいいなと思っております。

今まで、銅像づくりそのものが、建てる会ベースで進んできましたので、ここから先、出来上がったら、私たちがこれを使ったまちづくり、行政が何ができるのかということ、しっかりと受け止めていきたいなと思っております。

議長 ありがとうございます。

それでは、まず、はじめに、ポルタひさいのことですが、あそこの防災センターを持ってきたらどうかなと思っておりましたが、最近では、脳ドックや、PET検診などの医療機関はどうかと思っております。庁舎との絡みもありますし、どういうことになるのかなと思っておりますが、個人的には、庁舎は今のところがいいと思っております。

それから、時間がありませんので、早口でしゃべらせていただきます。

榊原のことですが、湯の瀬の前に広大な土地を確保して、道の駅をつくりま
す。その道の駅の中には、足湯や旅館、民宿の総合案内所があり、農産物が売
られ、地元の方が地産地消の食事を提供するなどの場所をつくってはどうかと
思います。運営主体としては、それぞれの団体が、榊原活性化協議会を組織し、
運営することとします。そうすることで、女性をターゲットにランチなど道の
駅に足を運んでいただけるのではないのでしょうか。具体的な食事の場所として、
ランチは、バイキング方式で、1,000円程度として、シルバー、小学生以
下などの割引料金を設定してはどうかと考えております。

そのほか、NPOが運営する体験学習を主とした榊原自然学校や地域の高齢
者が集うふれあい館などをつくったらどうかと思います。駐車場は大き目のも
のが必要と考えます。

今あるおもてなし館も、道の駅のほうへ移転させ、自然学校の事務所として、
インターネットを利用した情報提供、交流をするとともに、自然学校では、竹
細工とか木工体験などをやってはどうかと考えています。また、ここで作った
作品やキットを商品化し、インターネットで販売することも考えてはいかがで
しょうか。

このような施設は、幼稚園や、小学校の遠足などにも、利用していただける
と思いますし、併せて、道の駅やレストラン、温泉なども御利用いただけると
思いますので、リピーターとして確保することも必要と考えます。

森下委員 市長は、郷土資料館の建設については、どのように思っていますか。

市長 郷土資料館に対するお気持ちはよくわかりますが、旧市町村で郷土資料館を
持っているところがたくさんあって、年間数百人の利用しかありません。旧津
市でも、お城なり、高虎公に関する資料館がほしいということがありました。折角、今度、県の博物館ができるので、そこに津市なりが、持っている文化財
を展示させていただいて、多くの方々に見ていただいたほうがいいのではない
かということで、県に提案させていただいておまして、県のほうも、津にあ
る県立博物館ですので、それは考えましようと言ってくさっています。常設
の資料館そのものは難しいと思いますが、いろんな公共施設で、そういうコー
ナーをつくっていくということは、子供たちへ文化を伝えるという意味でも、
必要かなと思っておりますので、そういう観点で、もう少し考えさせていただ
きたいと思います。箱モノを独立でつくるというのは難しいと思います。

森下委員 古文書などお持ちの方が、高齢なので行政に寄付したいけれども、津市に寄
付してもきちっと管理してもらえるかどうかわからない、松阪市などに寄付し

たほうがモノが活かされるのではないかといったことを聞きますので、地元の文化財などがほかに流出していく恐れがありますので、それをとどめる方策の一つとして考えています。

市長　もし、そういうことがあれば、由々しき問題でありますので、久居の教育委員会の所長がおりますし、私どもで、そのようなお話をよく伺って、どのような形で活用させていただくのであれば、私どもがお預かりできるかということ、丁寧に相談させていただきたいと思います。

佐藤委員　話は、箱モノの話ではないと思います。市史編纂に対して、旧津市、旧久居市もそうなんですが、非常に後ろ向きなんです。だから市史編纂に対してきっちりやっている他市町村に資料を預けたほうが有効じゃないかと考えられるんだと思うんです。ですから、教育か、文化か、担当は分かりませんが、市史編纂ということのをきっちり考えていただきたいと思います。

中森委員　私は、踊りをやってまして、体育館をお借りして講習会をすることがあるんですけども、津市体育館は、「鳩が入りますので締切にしてください」といった張り紙が、張られてから5、6年が経っていますし、立成小学校の体育館では、取ったらどうかと思うような緞帳に「危ないので触らないでください」と書いてありました。また、孫が、久居の体育館で剣道をしています、開会式の時に参加者が、暑さでバタバタ倒れるということがあります。このような状況をいかがお考えでしょうか。

市長　体育館については、津インターのそばに、総合スポーツ施設をつくらせていただきますが、就任当時は、武道館の話が決着していませんでしたので、この間の知事との対談の中で、三重武道館をそこに、移して、はめ込んでいただくことになりました。平成28年には、立派なものができると思っております。

それが造られたうえで、現在の津市体育館は廃止になりますし、津市民プールも、50mプールを含めて廃止になります。その分、久居のプールを使っていたらこうと思っておりますが、屋内プールはもちろん新しい施設につくりま

す。

今の体育館は、あれではいけないと思っております。

議長　ありがとうございました。

市長　それでは、ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

これで、失礼させていただきます。

地域振興課長 それでは、時間の関係もありましたので、市長は退席させていただきましたが、改めていろいろと御意見いただきましたので、この意見につきましては、9月10日過ぎに検討委員会を予定しており、検討委員さんに改めて集まっていただいて、資料1の部分をもう少し補足をさせていただき、一定の提案と言いますか、中間報告的なものを検討委員会でまとめていただいて、次回9月25日の総合計画審議会で、会長さんに御出席いただいておりますので、中間報告という形で報告いただきたいと考えております。

また、中間報告の内容につきましては、検討委員会の委員さんにつくっていただいた後で皆様方に送らせていただきますので、内容についての御確認をお願いします。

事項2に移るわけですが、大きなまちづくりの課題とか方向性の話ですので、今後、事項2については、12月または1月の初めまでの期間に、具体の事業について皆様に肉付けしていただいて、最終の当審議会からの意見にさせていただいたらと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

2 地域かがやきプログラムの今後の取り組みの方向について

議 長 それでは、「まちづくりの課題」や「課題解決のための方向」を考えていただく中で、久居地域にはどのような事業が必要か、どのような事業があればよいかなど、いろいろと考えていただいたことがあるかと思っておりますので、委員の皆さんから御意見をいただきたいと思っております。

井面委員から順番に、時間の都合もありますので、お一人2分程度で、お願いします。

地域振興課長 事項2については、「地域かがやきプログラム事業の今後の取り組み方向」ということで、平成23年度地域かがやきプログラム事業を評価していただく中で、具体的な取り組みや事業についていろいろと挙げていただいておりますが、それをまとめさせていただいたのが、資料2でございます。資料2の見方としては、今の時点では右側から左に向いて見ていただくような内容になっておりますが、今度は新しい事業を考えていくということで、真ん中の列のコメントを参考にしながら、新しい事業の内容について話していただけたらと思います。では、よろしくお願いします。

井 面 委 員 今後の取り組みについて、先ほどの意見と重なってくるかもしれませんが、防災のことを考えておりました。以前に異常気象で冠水等の被害がありました。今後、三連動地震等の災害が起きた時にチーム連携を取ってどのように対処し

ていくのかということ、日頃から近所の人と助け合っていく精神を検討していきたいと思っております。以上です。

岡 委 員 岡です。資料2のその他の部分に書いてあります、「地域が活気があり、輝く事業、特に高齢者が輝く事業を重視」とありますが、高齢者が輝く事業にはどのような事業があるのか、また高齢者と小さい子供たちが輝く事業にはどのようなものがあるのか、具体的にひとつひとつ、見ていくのはいかがでしょうか。高齢者が輝く事業は、皆さんからの意見にもありましたが、公民館でいろんな講座に参加するというのも輝くひとつでありますし、また公民館に足を運んでいただけないもう少し年齢の高い高齢者の方は、地域で輝いていただくために地域で話し合いの場、ふれあいの場をつくっていただく、これも高齢者が輝く場であると思います。

また、子供たちはスポーツを通して輝く、あるいは小学校区で一つの課題を持って、それに邁進して行って輝くというように、何かテーマをつくっていくのはどうかという意見を持っております。以上です。

川 合 委 員 榑原全体の活性化ということで、小さなイベントがたくさんありますが、3つくらいに集約していただいて、それを有効に活用していくのがいいかなと思います。小さいイベントをどれだけやっても身にならないので、大きなイベントを3つくらいにして、集中的にしていったほうが榑原の活性化につながっていくと思います。どの事業を選ぶのかというのは、また皆さんで議論していただければいいと思っております。以上です。

川原田委員 新しい事業を考えていく中で、一つの提案として聞いてください。
成美地区の自治会の新町1～5に旧道があります。元はバスが通っていたのですが、それは新しい道を通るようになりましたので、現在はあまり車は通りません。その旧道の再生策として、一方通行にして遊歩道を中心とした道をつくってみるという試みをしてはどうでしょうか。もちろん、地元の協力が前提ですけども。このことについて御検討いただきますよう御提案させていただきます。

倉 田 委 員 倉田でございます。先ほど御提案しましたように、まちづくりとして地域コミュニティが充実したまちづくり、そのなかでも公民館活動を利用した地域公民館づくりという提案をさせていただきました。資料2の一番上に記載してあります。公民館活動をさらに活発化する、その中心は自主講座であります。久居公民館には87の自主講座があり、それぞれ各地域の公民館にも数多くの自主講座があると思います。久居公民館を例にとりて説明をさせていただきますと、自主講座というのは年間の学習計画を立ててそれに基づいて学習を進めていくわけですが、現在は年間の仮予約ということで各公民館で便宜を図っていただいておりますが、この制度が平成25年度までの暫定措置となって

おります。3ヶ月前から利用申込みができるんですが、暫定措置以降は、毎月申込みに行かなくてはなりません。そういうことになりますと、年間の計画が大変立てにくくなります。そういう状況となっておりますので、自主講座を育てていくという観点からも現在の制度を継続していただきたいと思います。

そしてもう一つは、利用料金についてです。現在は、半額免除をしていますが、各公民館によって利用料金にバラつきがあります。久居公民館は非常に高い。自主講座ですので、自己負担は当然だと思いますが、電気料金等の必要経費にとどめていただくと、現在の料金の半額もしくは1/4くらいの金額にさせていただけるのではないかと思います。自主講座育成の観点からも大きな効果をもたらすと思います。ある都市では、利用料金が高すぎて自主講座が減っていき、これではいけないと利用料金を減額したけれど、自習講座は増えなかったという例もあるようですので、地域のリーダーをつくっていく、さらには高齢者の健康年齢が向上するような一つの行政の施策として考えていただいて、かがやきプログラムの雑学人づくり塾を拡大して、公民館活動全体を「地域いきいき公民館づくり」としてかがやきプログラム事業にさせていただければと御提案いたします。

佐藤委員

佐藤です。私は、この地域審議会では、働き盛り世代の代表のような立場にもなっていると思いますが、資料2の中で「高齢者が輝く」というような表現がありました。また、「子供が生き生きするような事業」というような提案もあったかと思いますが、私は、高齢者や子供だけではなくて、働き盛りの人間も地域に積極的に参加できる事業が必要だと思います。例えば、今日資料で配っていただいた「こどもみこし瓦版」の久居こどもみこし世話人会の方々ですが、私と同じ世代あるいはもっと若い世代のお父さん、お母さんたちが立ち上げ当初から積極的に地域づくりに取り組んでいらっしゃいます。そういった方々が久居のあちこちに出現するような事業が必要ではないでしょうか。そうした点で事項1で言わせていただいた「防災を核とした地域づくり」それから「男女共同参画モデル地区」といった事業が必要であると思います。これを提案とさせていただきます。

清水委員

私の店の周りの方々には80歳過ぎの方が多いです。桃園地区の公民館もいろいろとやってもらっていますが、川方町は公民館が少し遠いので、高齢者の方は行くことが大変なようです。また、佐藤委員がおっしゃった若い方の地域への参加ですが、昼間は勤めがあると思いますので、夜の部の公民館講座等ができたかと考えております。以上です。

柴田委員

先日、高齢者と子供たちのふれあいをさせていただきました。自分たちの地域の回覧でお知らせしただけでしたが、たくさんの子供たちが来てくれました。地域のお年寄りがとても協力的で、また久居高校や久居農林高校の方たちにも協力してもらって、盛大なイベントができました。こういった、ふれあい

のイベントをあちこちでしていただければありがたいなと思いました。地域と子供たちがもっと輝く場を増やしていただければなと思います。以上です。

津山委員 榊原のことですが、いろいろと御意見を聞かせていただいて、難しい問題もあろうかと思いますが、専門家の方に来ていただいて講演会を開いていただき、アドバイスをいただくというのはどうでしょうか。また、久居まつり事業ですが、歌手の鳳城朋美さんが「榊原旅情」という歌を歌ってみえますので、そういった久居に関連する方は呼んではどうかと思います。また、三重タイムズやふるさと新聞に掲載していただいたらなと思います。

中森委員 先日、花街道景観整備事業の実施場所を見て来ました。カンナの花が植えられていましたが、茎の部分は草に埋もれていて、かろうじて花の部分が見えていました。この時期の管理が大変なのは分かるのですが、季節の花を植えるのは、大変お金がかかると思います。それなら、桜の木を植えたらどうでしょうか。管理も楽だと思います。

それから、榊原のことですが、地域の方と温泉旅館の方との確執のようなことを耳にしておりますが、経営の方が大変で、なかなか地域の集まり等に行く余裕がないと伺ってます。そういった背景もありますので、理解していただきたいなと思います。

服部委員 資料2のその他の高齢者が輝く事業のところになじむかどうか疑問なんですが、敬老会事業についてです。津市の43の地区社協が実施しているのですが、予算がないということが問題となっております。特に久居は助成金が今年度で切れてしまいます。そういった中で、どのように継続していくのか。例えば、毎年していたものを3年ごとにするとか事業規模を縮小するとかいろいろな案があります。また、事業の内容について、行政は手伝いもしないのに口だけは出す。ですから、地区社協の役員さんたちで以前のように行政に戻そうかとも話しています。現在、1人800円の予算を補助金としていただいておりますが、それでは足りないので各地区社協が負担しているというのが現状です。

浜地委員 私は、このリーダーづくりのところですが、ここの発掘に力を入れるというところに賛成で、ここに力を注いでいただきたいと思います。発掘することによって、その人たちが集まって、久居まつりとか榊原の地域活性化に取り組もうかというところまで至ったらいいなと思いますので、発掘に力を注いでいただければいいかなと思います。以上です。

森下委員 久居の課題は、久居駅周辺と榊原だと思うんですが、榊原の御意見はたくさん出ていますし、施策もたくさんあるように思うんですが、久居駅中心の施策というのはあまり声が聞かれない。シャッターが多い、空き地が増えていくと

というのが現状だと思いますので、なんとか活性化してほしい。大門周辺は、いろいろなことを考えて、いろんなところと協力してやっているように思います。久居でも絵を描く人は久居の風景を描いて発表してPRしていただくとか、写真も然り、あいつ画廊のようなものが二ノ町、本町、新町辺りのどこかにできたらいいなと思います。市民が自由に出入りして、自分の作品を展示、発表が気楽にできるような場所が駅周辺にあったらいいなと思います。公民館講座のなかには、写真のグループや絵のグループがたくさんあります。そういった横の連携をもって市の活性化に活かせるような形づくりをしていけたらと思います。それが高通公350年記念につながっていくと思います。以上です。

議長 ありがとうございます。質問等あればどうぞ。

倉田委員 服部委員から敬老会事業についてのお話がありましたので、私の意見を述べさせていただきます。社会福祉協議会の組織そのものが機能していない組織になっていると思います。私自身も1年間させていただいて、提案させていただきたいと思うんですが、社会福祉協議会の中心メンバーが、自治会の役員、民生委員さん、婦人会の代表、多少地域の代表の方がみえますが、この方たちは企画の担当であるので、実行部隊が大変手薄になっている。民生委員さんも本来の業務と違う業務をやっていただいていると思います。だから、企画運営をする役員会とそれを実行する実行部隊の組織が欠けておりますので、できれば福寿会の方で、お元気な方はたくさんみえますので、自分たちのことは自分たちでやっていく、そういった組織づくりをしていかないといけないかと思えます。来年に向けて自分の地区の社会福祉協議会へも組織の見直しについて提案したいと思っております。

それから、予算面の件ですが、次年度の久居地域の基金は無くなりますので、検討していかないといけないと思うんですが、私の地域は12月に文化祭を行います。これは、広範囲な団体が合同で行います。これと敬老会を一緒にできないかと提案してみようと思っております。

予算面は、市の補助金と自治会1戸当たり500円の補助をしておりますので、それで賄えるかなと思っております。以上です。

議長 ありがとうございます。

服部委員にお伺いしたいのですが、市の補助金の1人800円が無くなるわけではないのですか。

服部委員 基金の部分が無くなるということです。

倉田委員 敬老会をやってあげようというのではなくて、対象者の方でもお元気な方はたくさんみえますので、みんなでやろうという意識に変えていかないといけないと思います。

議 長 森下委員にお伺いします。久居地域であのつ画廊のようなものをする時にまちかど博物館の方々は協力していただけるのでしょうか。

森 下 委 員 現在の久居地域中心部のまちかど博物館は、新町の人形の博物館と二ノ町の下駄の博物館と十字屋さん、あと戸木に久居藩の博物館があります。まちかど博物館は、県の施策にのっとった施設となっておりまして、もしあのつ画廊のようなものを作ろうとすると新たに申請が必要だと思えます。また、まちかど博物館は、個人の住宅や店舗でやってみえますので、スペース等の問題があると思えます。ですから、空き家や空き店舗を利用したほうが良いと思えます。

柴 田 委 員 中町に大きな空き家があったんですけど、そこが今、喫茶店兼展示等ができる場所となるようですので、そういうところの活用もいかがでしょうか。

中 森 委 員 先ほど、服部委員が発言された敬老会の話ですが、4年前くらいまでは久居市民会館で、盛大な敬老会が開催されていましたが、そういうのを望んでいらっしゃるのでしょうか。

服 部 委 員 大きなイベントについては考えておりませんが、昼の弁当は必要だと思っています。

議 長 ありがとうございます。それでは、これだけは言っておきたいという追加の意見等ありましたら、どうぞ。

森 下 委 員 10月14日に文化振興課主催の健康ウォークがごございます。久居コースでございまして、久居駅で受付をします。11.7キロのコースです。参加人数は350～400名くらいを予定しております。私たちガイド会は、要所要所で紙芝居をさせていただきます。計画の際にコースの中に久居元町の埋蔵文化整理所が含まれていなかったのもので、私の方からお願いして入れていただきました。ぜひ、御参加ください。

議 長 ありがとうございます。
それでは、本日事項1、2でいただきました意見・提案などは、次回の地域審議会までに、事務局で資料整理の上、検討委員会でまとめていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(了解を得る)

議 長 御了解いただきましたので、よろしくお願いたします。

なお、各委員さんからいろいろな御提案をいただきましたが、改めて「言い忘れたこと」や、「これだけは言うておきたいこと」等がありましたら、別紙に記入していただき、9月7日（金）までに、事務局までお出し下さい。

3 その他

議 長 それでは、その他の事項に移ります。

1番目の項目でも触れさせていただきましたが、これまで当審議会で御審議いただきました内容については、9月25日に総合計画審議会が予定されておりますので、久居地区の意見としまして報告していきたいと考えております。

報告にあたっては、他の地域審議会とも歩調を合わせ、それぞれの審議会からの中間報告という形になると思いますが、取りまとめにつきましては、本日の審議内容も含め、9月12日に検討委員会を開催し、作成の上、それを携えて総合計画審議会へ臨んでまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（了解を得る）

議 長 御了解いただきましたので、事務局とも相談の上、検討委員会にて、中間報告を作成し、報告していきたいと存じます。

なお、中間報告案については、作成が済み次第、9月中旬頃になると思いますが、委員の皆様方に送付させていただきます。

次に、関連しますが、次回の当審議会の日程について、事務局から連絡させていただきます。

課 長 次回第5回久居地区地域審議会の日程について、事前に調整させていただきました結果、9月27日（木）午前9時30分から開催させていただきたいと思っております。

当日は、9月25日の総合計画審議会での審議内容について、会長さんから御報告いただいた後、事項2で御意見いただいた内容について、より具体的な御審議をお願いしたいと存じます。

今後の地域審議会でございますが、ある程度、回数を重ねて、いろいろな意見を言ってもらわないと、提言としてまとめるには、言い足りない部分が出てくる可能性があるように思います。

地域審議会の年間予算が6回分しかありませんので、今後のことを考えると、1～2回分予算が足りない状況になるのかなと思っておりますが、どうしても必要となれば、追加で任意の地域審議会を開かせていただいて、みなさんから直接、御意見を伺う機会を設けたいと事務局の方では考えておりますが、いかがでしょうか。ここからは、議長さんの方で采配をお願いします。

議 長 今、事務局の方からも説明がありましたけれども、あと1～2回ほど審議の必要があるようですが、それにつきまして、中途半端ではいけないと思いますが、予算の関係もありますので、報酬は出ないが、1～2回追加で地域審議会を開催したいということです。賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手多数)

議 長 ありがとうございます。挙手多数ということで、どうしても必要となれば、報酬は出ませんが、追加で地域審議会を開催させていただくということにより、しくをお願いします。

ほかに、事務局から何か報告事項はありませんか？

地域振興課長 特にありません。

議 長 全体を通じて、本日の議題以外でも結構ですので、御意見などあれば挙手をお願いします。

(発言なし)

議 長 本日の事項はすべて終了しました。以上をもちまして第4回久居地区地域審議会を閉会します。本日は長時間にわたりありがとうございました。

午後 0時 05分 閉会